

南東北インターハイ派遣審判員研修会を開催

7月に宮城県で開催される南東北インターハイに派遣される審判員を対象とした研修会を5月5日に松島フットボールセンターで開催しました。

今回の研修会は、県内から派遣される審判員が集まり①プラクティカルトレーニング(オフサイドトレーニング、第4審判員について)②座学形式の研修(チュータリング、主審と副審の協力、オフサイドの見極め、選手交代時の手続きについて)を行いました。インターハイの成功に向けて、選手を支える審判員もいよいよ大会を迎えるという高いモチベーションで研修会を行いました。



加藤 勝 審判委員長 コメント

本年7月下旬より開催される南東北インターハイに向けた、第1回派遣審判員研修会を開催したところ、多くの審判員に参加をいただきました。昨年秋から継続的に研修会は開催していましたが、参加予定の審判員が実際に副審や第4の審判の研修し、これまではないモチベーションでの研修会であったように感じました。これまでの審判活動の中で、理解していたつもりでいたことを、理解を更に深めてもらえる研修会ではなかったかと思います。大会まであまり日数はありませんが、数回にわたり研修会を開催し、ミスのない審判ができるように実践を取り入れた研修メニューにしていく予定です。日程調整して参加してほしいと思います。大会を成功するため、皆様方のご協力をお願いします。

平賀 玄太 2級審判員 コメント

南東北インターハイの本県開催に向けて、その成功に向けて、様々な準備が進められている。中でも、白熱した試合が展開されより良い大会にするためには、審判技術や競技規則の理解も欠かすことのできないものである。私自身、今回のインターハイに審判の側面から関わられることを光栄に思うとともに、その責任の大きさを実感している。

その中で開催された講習会では、実技においては、副審でのオフサイドの判定や第四審の交代の手続きについて、実際のゲーム場面で想定される状況下でのトレーニングを行った。講義では実技での内容をもとに、競技規則の内容を実際のゲーム状況に置き換えて捉え、ディスカッション等を通して実践的に考えることができた。

今回の研修会で、自分自身が『できないこと』、『分からないこと』を実感するとともに、その課題が明確となった。これまでは経験という言葉でその曖昧にしているところがあったが、今回明確となった課題をもとに、今後の試合での判定やその行動に生かし、積極的にチャレンジしたい。そして南東北インターハイの成功に一審判員として関わられるよう、尽力していきたいと思う。

佐藤 巧雅 2級審判員 コメント

今回の研修会では、副審、第4の審判員について研修を行い、改めてインターハイの審判を行うという実感・責任感を感じました。プラクティカルトレーニングでは、オフサイドの判定をその場で映像で振り返ることができ、自分の判定に対しての見方やラインキープがしっかり出来ているかを見ることができ改善点がすぐわかり実践できたのでとても良いトレーニングになりました。また、第4の審判員の役割として交代を行いました。慌てて対応ができずミスをしてしまいトレーニングを行う様々な部分に気づくことが出来ました。講義では、副審・第4の審判員としての役割を再確認、どのようなサポートを行うべきか、交代の手続きについて再確認することが出来ました。インターハイを向かえるにあたりモチベーションが高まり、これからの審判活動により一層気持ちの入る研修会になりました。